

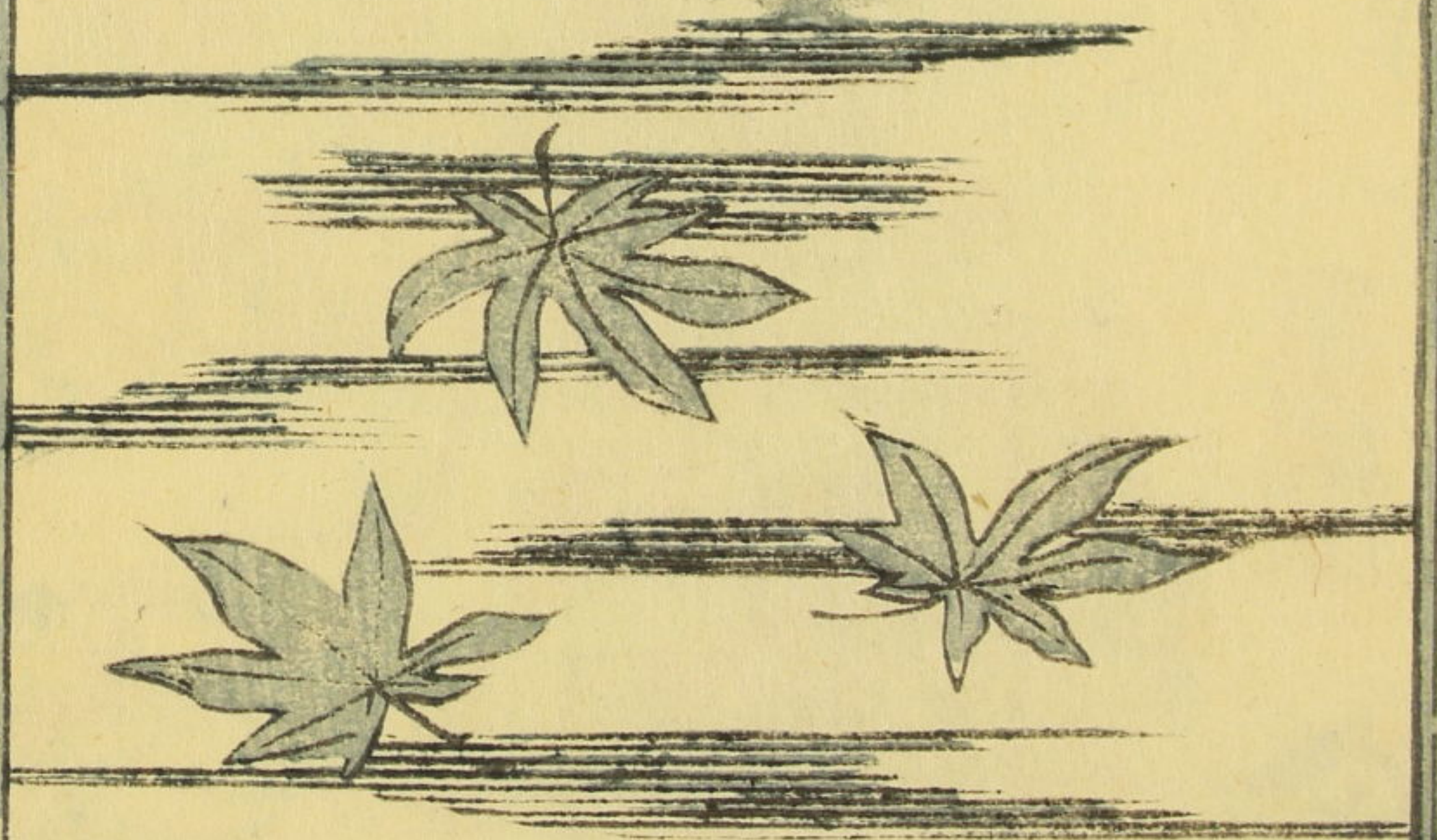
~ 13
3702
23



門へ13
號3702
巻23

為永春水誌
女傳保良志
日記

うららかな
うららかな
うららかな



利を好む者小財珍と與えてこそ迷ひ色と好む者小美女と與えて
これ成感いと念ひ君子も道をもてせぬ欺るる夏も何んを況て小人ある者
とや既小本編小著と處の鴉埜黒平が哄誘さまで右傳父子故計るの一段
淫慾利欲と離る夏なり原より右傳の小文次たる時犯せる罪は
所謂宿業う遮莫渠ふも又罪あり多門之助と公然と討得ること乃
かたを知り暗殺做んと志するより終小養父故害ふ小いし實に
已ふ出たるもの已に復らざる夏なり何と釋免等合定歎く

全申春鶴成
丙子冬發兌

為永春水誌

寶齊備書





女兒淡子

岩黨 鴉野黒平

楠右傳 正鄰

三十緒の...
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十



歌
 瀧水次郎



Handwritten text in the upper left of the right page, including the word 'Sunder' and various cursive characters.



Handwritten text in the upper left of the left page, including the word 'Sunder' and various cursive characters.

Handwritten text in the lower right of the left page, including the word 'Sunder' and various cursive characters.

